



はなみずで 鼻水はどこから出るの

はなみず 鼻水は、「ねん液」にくっついたごみやちり

鼻の内部には「鼻くう」という空間があり、「鼻くう」のねん膜（ねばねばして湿ったうすい膜）からは、「ねん液」（ねばりのある液体）が出ていて、入ってきたちりやごみを、くっつけて取ります。これが、鼻水になるのです。

はなみず 鼻水をつくるのも、鼻の大切なはたらき

鼻は、吸った空気を、温めたり、湿り気をあたえたり、ちりやごみを取ったりして、肺へ、きれいな、やさしい空気を送る、大切なはたらきをしています。

まず、鼻の入り口には鼻毛があり、空気の中のごみを、取り除きます。

鼻の内部の「鼻くう」には、たくさんの細かい血管がきており、空気はここで温められ、湿り気をあたえられたりします。

「鼻くう」のほほ側のかべには、鼻甲介とよばれる骨製のたながあり、その表面は、ねん膜になっています。そして、そのねん膜からは、ねばねばした「ねん液」が出ていて、入ってきたちりやごみを、くっつけます。

なみだは、泣いたときだけでなく、いつも少しずつ出ています。そして、目から鼻へつながる細かい管から、鼻へ流れています。この、鼻へ流れてきたなみだと、ちりやごみをくっつけた「ねん液」が、いっしょになって出たのが鼻水です。（監修・保志 宏）

〔鼻くうのしくみ〕

